

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

麦類赤かび病の適期防除の徹底について

これから麦類赤かび病の防除適期を迎えます。3月下旬以降、断続的な降雨が続いていますが、赤かび病の防除は適期を逃さずに行うことが重要です。

については、圃場ごとの生育状況を確認したうえで、短い晴れ間を利用するなどして確実に適期防除を実施するよう、下記事項を参考に、生産者への指導をお願いします。

記

1. 気象推移

(1) 3月下旬以降に断続的な降雨があり、本病菌の感染に好適な気象条件^{*}で経過している。

^{*}感染に好適な気象条件（胞子飛散好適条件）とは①日最低気温が10℃以上、②日最高気温が15℃以上、③降雨日（または湿度80%以上）またはその翌日、以上の3条件を満たす気象条件

(2) 九州北部地方の1か月予報（福岡管区气象台4月2日発表）では、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は多いと予想されている。特に1週目（4/4～4/10）は平年に比べ晴れの日が少ないと予想されており、本病の感染が助長されるおそれがある。

2. 麦類の生育状況

麦類の出穂期は平年並～約2日早い（表1）。

表1 農試作況試験における麦類の本年の生育ステージ¹⁾

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネ コムギ	11/20	本年	1/27	2/18	2/21	3/28
		平年	1/30	2/18	2/22	3/30
はるか 二条	12/1	本年	2/4	2/24	2/26	3/29
		平年	2/8	2/25	3/3	3/31
はるか 二条	12/10	本年	2/7	2/25	2/27	3/31
		平年	2/9	2/25	3/1	3/31

1) 令和8年4月7日時点調査結果（佐賀県農業試験研究センター）

3. 防除対策

(1) 小麦の場合、開花始め～開花期（出穂期の約7～10日後）の赤かび病防除は、発病抑制に加え、DON低減効果が高い（表2）。本病に対する1回目防除が遅れている場合は、降雨の合間を見計らい、速やかに薬剤防除を行う。なお、本病の発生が多いパン用小麦については、2回防除を基本とする。

(2) 大麦の場合、蒴殻抽出期（表2）（出穂期の約2週間後）の赤かび病防除は発病抑制に加え、DON低減効果が高い（表2）。本病に対する1回目防除が遅れている場合は、降雨の合間を見計らい、速やかに薬剤防除を行う。なお、本病にやや弱い「はるか二条」「しらゆり二条」については、2回防除を基本とする。

- (3) 出穂期は、播種時期や圃場条件等により異なるため、必ず圃場ごとの生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。
- (4) 小麦・大麦いずれについても、今後の気象経過によっては、関係機関から発出される防除情報等を参考に、追加防除を検討する。

表 2 麦類赤かび病等の防除適期

麦種	品種	↓ 出穂期		開花	開花10日	開花20日	開花30日			
		↓ 穂揃期		↓ 開花期(小麦)	↓ 葯殻抽出期(大麦)					
		0	+5日	+10日	+15日	+20日	+25日	+30日	+35日	+40日
小麦	パン用品種			←→		←→		←→		←→
	シロガネコムギ			←→		←→		←→		←→
	チクゴイズミ			←→		←→		←→		←→
大麦	はるか二条				←→	←→				
	しらゆり二条				←→	←→				
	サチホゴールド				←→	←→				

←→ : 基幹防除 ←→ : 赤かび病・かび毒低減を目的とした追加防除
 ←→ : かび毒低減を目的とした追加防除

【注意事項】

- 注1) かび毒低減を目的とした追加防除は、前回防除から7日以上経過している場合に行う。
 注2) 追加防除の判断は、関係機関から発出される防除情報等を参考にする。
 注3) 薬剤の使用方法(収穫前日数)に特に注意する。

【参考】農薬散布から降雨までの時間の影響 (2005年、農研機構九州沖縄農業研究センター)

処理	発病度 (%)	赤かび病防除価 (%)	かび毒濃度 (mg/kg)	かび毒低減率 (%)
無降雨	2	a	96	1.5
散布直後降雨	28	b	54	9.8
30分後降雨	9	a	86	5.0
60分後降雨	7	a	89	1.0
120分後降雨	4	a	94	3.3
240分後降雨	3	a	95	1.7
無処理	62	c	—	40.7

供試品種: チクゴイズミ。チオファネートメチル水和剤により防除を実施。降雨は強い雨(25mm/h)を2時間継続して実施。降雨処理終了後に赤かび病菌を噴霧接種。10日後に発病度を調査した。かび毒濃度はDONとNIVの濃度を合算。試験は3反復で実施し、その平均を求めた。但し、対照区の発病度は、それぞれの降雨条件で実施した農薬無散布区全て(6処理区×3反復)の平均。同一カラムの異なる添え字はTukey-Kramerの多重検定(5%水準)で有意差あり。

(「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル改訂版(農研機構)」から引用)

連絡先: 佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部
 〒840-2205 佐賀市川副町南里1088
 TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp
 ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html